

中札内村子どもの読書活動推進計画 「第二次計画」

心豊かで健やかな成長を願って

平成 28 年度～32 年度

第1章 中札内村子どもの読書活動推進計画策定の考え方

第1節 背景	・・・・・・・・ 1
第2節 理念	・・・・・・・・ 1
第3節 対象と計画期間	・・・・・・・・ 1

第2章 子どもの読書活動を推進する体制

第1節 体制の整備にあたって一家庭の役割	・・・・・・・・ 2
生まれる前から小学校入学前・小学生期・中学生期	
第2節 保育園・子育て支援センター	・・・・・・・・ 5
保育園の状況・子育て支援センターの状況と課題	
今後読書活動の推進に向けて取り組むこと	
第3節 小学校	・・・・・・・・ 7
中札内小学校の状況と課題	
今後読書活動の推進に向けて取り組むこと	
上札内小学校の状況と課題	
今後読書活動の推進に向けて取り組むこと	
第4節 中学校	・・・・・・・・ 9
中札内中学校の状況と課題	
今後読書活動の推進に向けて取り組むこと	
第5節 図書館	・・・・・・・・ 10
図書館の状況と課題	
今後読書活動の推進に向けて取り組むこと	
第6節 地域	・・・・・・・・ 11
ボランティアの状況と課題	
今後読書活動の推進に向けて取り組むこと	
放課後児童クラブの状況と課題	
今後読書活動の推進に向けて取り組むこと	

第3章 計画の普及に向けて

第1節 計画の効果的な推進に向けて	・・・・・・・・ 12
第2節 推進するために	・・・・・・・・ 13
第3節 心豊かで健やかな成長を願って	・・・・・・・・ 13

中札内村子どもの読書活動推進計画「第二次計画」策定委員名簿	・・・・・・・・ 14
-------------------------------	-------------

第1章 中札内村子どもの読書活動推進計画策定の考え方

第1節 背景

近年、情報化社会の進展に伴いインターネットやメディアを通じて、子どもたちは求める情報を簡単に得られるようになりました。生活では遊びが多様化し、本に親しむ時間の減少が懸念されています。

子どもは、他人とかかわり、自分自身を見つめながら育ちます。社会では、生きる力を備え多くの困難に立ち向かう心が必要です。子どもと本との関係を木に例えると、赤ちゃんのころに植えられたおはなしの種が、保護者や地域のあたたかい関わり合いという陽差しをあびて大きく伸び、子どもは本から想像力、好奇心や探究心などの栄養を得て、豊かな人間性をゆるぎないものに成長させていくことができます。

子どもの健やかな成長のため、国や北海道は子どもの読書活動の推進に関する法律や計画の整備を進めており、中札内村においても取り組んでいる事業や今後の目標をまとめ策定された「中札内村子どもの読書活動推進計画」（平成22年度～26年度）の理念を継承しながら、「読書の村づくり」を目指します。

第2節 理念

すべての子どもたちが読書活動¹を通じて心豊かに育ち、健やかに成長できるようあらゆる場面で読書活動のよりよい環境整備を図ります。

第3節 対象と計画期間

この計画で「子ども」とは乳幼児期から中学3年生までをいい、計画の対象とします。平成28年度から32年度までを計画期間とします。

¹ 読書活動 本を読むこと、読み聞かせをしてもらうこと、布でできた本等に触れること、録音図書のように音声で本を楽しむことなど図書に親しむさまざまな活動をいいます。

第2章 子どもの読書活動を推進する体制

第1節 体制の整備にあたって一家庭の役割

安らぎの場である家庭で、本を通じた大人とのふれあいを楽しめるようにすることや、いつでも安心して好きなように本の世界を味わうことができるようにするのが家庭の重要な役割です。

《●生まれる前から小学校入学前》

いつから読み聞かせを？という問いには、おかあさんの優しい声を聞くことができる、赤ちゃんがおなかの中にいるときからですと答ええています。

大人とふれあいながら絵本を読みきかせてもらう経験は、感情や言語の発達に大きく影響します。大人の膝や腕の中で、安心してあたたかい愛情を感じながら読んでもらうことによって、子どもは絵本の世界に自然に溶け込んでいきます。

●本の読み聞かせをすることの効果

- ・「これよんで」と家族とのコミュニケーションが増えます。
- ・絵や文字に興味を持つようになります。
- ・絵本で見た自然の動植物などをはじめ、本以外にも興味が広がっていきます。
- ・ことばの音感やリズムをまね、言語の発達が促されます。
- ・感情や表情が豊かになります。
- ・集中力が高まります。
- ・じっと座っていられるようになり、人の話をじっと聞くようになります。
- ・読み聞かせする人と読んでもらう人同士で同じ世界を共有する楽しさや心を通わせられる幸福感を味わえます。

●ポイントや提案

- ・おもちゃと同じように絵本も手の届くところに揃えます。
- ・読み聞かせが苦手なら、子どもを膝に乗せて絵本のページをめくってみてください。目で追うものを「これはなんだろうね」と言葉のキャッチボールをするのも素敵な読み聞かせです。
- ・例えば、寝る前のひとときや雨降りのにきに読み聞かせをしてはどうでしょう。読書の習慣づくりになります。

●村が取り組んでいること

- ・ブックスタート



乳児健康診査対象児（7～8か月）に、大人と赤ちゃんが本を楽しむきっかけを持てるように司書が一人ひとりに本の説明をして、赤ちゃんに2冊プレゼントしています。子育て支援センターで奇数月の第1水曜日と第3月曜日の午前に司書が読み聞かせをしています。

- ・図書館

0歳から利用者カードを作ることができます。じゅうたん敷きのおはなしの一むという開放の部屋があり、乳幼児向けの本をたくさん揃えています。ベビーベッドやベビーカーを配置し、大人が赤ちゃんとゆっくり過ごせるよう環境づくりをしています。また、図書館ボランティアの協力を得ながら、毎月第2・4土曜日におはなしの一むで子どもたちに本の読み聞かせをしています。

●相談するところ

子どもと本とのふれあいや読み聞かせの方法など、どんなことでも相談できます。

- ・福祉課保健グループ
- ・図書館、教育委員会
- ・保育園、子育て支援センター
- ・地域のボランティア（11 ページ参照「図書館ボランティア」・「まぎあぐらす」）

◀●小学生期▶

文字やことばを理解できるようになると、世界がぐんと広がります。読書で想像力が養われ情緒豊かになり、身の周りの人を思いやる心やものを大切にする心が深まります。自分で読みたい本を選択し、興味のある分野を掘り下げて調べ、知識を深めていく喜びを感じられるようになります。

●読書習慣が身につくことの効果

- ・語彙が増えることで、自己表現が豊かなものとなります。
- ・多様な物事に触れて他者の考え方や生き方を学ぶことで、心のよりどころができます。
- ・知識を深め、学ぶ楽しさを知ることができます。
- ・集中力が高まり、落ち着いた生活ができるようになります。

●ポイントや提案

- ・本が身近なものであるよう、本のスペースを生活空間に設けます。

- ・大人が本を読む家庭は、子どもも自然に本に親しみます。
- ・「今日学校どうだった？」と同じように「その本どうだった？」と会話をしましょう。子どもが喜んで説明をしたとき、言葉や考え方の成長を感じることができます。
- ・低学年では読み聞かせなどにより、本に親しんだり読書を楽しんだりする時間を作ることを心がけます。
- ・高学年になると読書力がつき幅広いジャンルの本に目を向けるようになります。各教科や総合的な学習の時間、特別活動における調べ学習など目的にあった本を選べる環境整備をしていきましょう。
- ・毎月第2土曜日のノーテレビデー・ノーゲームデー²の時間を読書に充てるなど、家読³を促しましょう。
- ・工作、料理や折り紙の本の内容を家庭で実践したり、家族で図書館や書店に出向く楽しさを伝えましょう。

●村が取り組んでいること

- ・図書館

小・中学生向けの本も毎月新刊として相当数を購入しています。後掲（10 ページ参照）のように多くの催しを行っています。家族で楽しめる図書館を目指しています。

◀●中学生期▶

・中学生になると生徒会・部活動への参加により学校での生活時間が長くなるとともに、家庭学習の時間が増加するなど生活のリズムが大きく変化することにより、家庭で読書をする時間が減少する傾向にあります。

また、心身が著しく成長し、親に対する反抗期を迎え親子のコミュニケーションが不足しがちな時期でもあります。

中学生期における読書は、自己を見つめ、自己の向上を図るなど自己のあり方を考えていくうえでの力になります。

² ノーテレビデー・ノーゲームデー 大人と子どもの、テレビとゲームの電子メディアの接触時間を見直す取り組み。

テレビを見ず、ゲームをしないで「家族の団らん」を大切に「体験活動」や「読書活動」に親しみ学校、家庭、地域における望ましいメディアとネット利用に向けたルールづくりの促進をはかるもの。中札内村では平成27年7月～28年2月まで第2土曜日の18:00～21:00に設定している。

³ 家読（うちどく） 家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションを図ろうという取り組みのこと。なお、「朝読（あさどく）」とは、学校における始業前の一斉読書のこと。

●読書習慣の効果

- ・言葉や知識が増えると、自己表現が豊かなものとなります。
- ・多様な物事に触れて他者の考え方や生き方を学ぶことで、心のよりどころができます。
- ・知識を深め、学ぶ楽しさを知るとともに他者とのコミュニケーションツールとして活用できます。
- ・集中力が高まり、落ち着いた生活ができるようになります。

●ポイントや提案

- ・本が身近なものであるよう、本のスペースを生活空間に設けます。
- ・毎月第2土曜日のノーテレビデー・ノーゲームデーの時間を読書に充てるなど、家読を促しましょう。
- ・生徒会活動及び部活動や家庭学習の合間に読書を楽しむことを提案しましょう。

●村が取り組んでいること

- ・図書館
小・中学生向けの本も毎月新刊として相当数を購入しています。後掲（10 ページ参照）のように多くの催しを行っており、家族で楽しめる図書館を目指しています。

第2節 保育園・子育て支援センター

戸外遊び、お絵かき、粘土遊びなど保育の時間で大切なことはたくさんあります。また、子どもには豊かな感性や心を育むために絵本は欠かせないものの一つです。子どもたちや保護者が絵本に親しめるようなきっかけづくりを目指します。

●保育園の状況

- ・保育園では、子どもたちみんなが遊ぶ遊戯室や各保育室に絵本など数十冊置いています。おもちゃを収納する場所と同じように本も収めており、子どもがいつでも本に触れられるよう環境づくりに努めています。
- ・保育園全体としては登園後の自由時間や残児保育の時間に保育士が絵本や紙芝居を読み聞かせしています。また、各クラスでは午睡をする前に読み聞かせを行っています。
- ・「保育園だより」や「クラスだより」など保護者へのお知らせで、おすすめの絵本を周知しています。



・3歳児以上のクラスでは毎月1回、図書館へ行って子どもたちが好きな絵本を借りてきて、本に親しむ活動を行っています。

・中札内きらきら保育園と上札内保育園においては、図書館司書や地域のボランティア(『図書館ボランティア』や『まごあぐうす』)が読み聞かせを取り進めてくれています。

●子育て支援センターの状況

・約600冊の絵本があり、常時400冊程度見ることができるようにしています。絵本の購入に際しては、子どもの年齢に合わせ選書するほか、利用者(親子)から寄せられた要望を聞いて決めています。

・1回1家庭5冊まで、本の貸し出しを行っています。

所有する絵本のなかには音の出る絵本も揃えており、利用者からとても人気があります。また、園児や保育園に貸し出しをして、読み聞かせに利用されています。

・開放事業や一時保育利用時に、子どもが気に入った絵本の貸し出しを利用者(保護者)に勧めています。

・子育て支援センター開放事業「げんきの日」「ぴよぴよの日」「サークル支援」などの事業の終わりに職員が絵本の読み聞かせを行っています。



●課題

・本が好きな子どもとそうでない子どもが偏っています。

・子どもが本を丁寧に扱えず、傷みが早いものがあります。

・保護者から「どんな絵本を選んでよいかわからない」との相談が寄せられています。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

・古くなった本を整理して、子どもが本を手に取りやすい環境づくりを取り進めます。

・子どもたちに本を大切に扱うことを根気よく教えます。

・職員は、子どもの年齢に合わせた絵本の選定や読み聞かせのコツ、ポイントなどを学ぶことに努めます。

・絵本の読み聞かせを日頃の保育の中に明確に位置付けて、クラスごとに積極的に取り組んでいきます。

・保護者との懇談会や「保育園だより」や「クラスだより」で、絵本の紹介や子どもに対する読み聞かせの大切さを掲載します。

・絵本だけでなく、育児書や大人が読んでも楽しい絵本など、親子で本に親しめる環境づくりを取り進めます。

・支援センター内に子どもに人気の絵本の周知やお勧めする絵本のコーナーを設置して、親子で絵本に関心が持てるようにします。

第3節 小学校

読書の楽しさを知り、想像力を働かせて思いやりの心を育む図書館教育を目指します。
児童、教職員や地域の大人の力で学校図書館が子どもたちの心のうるおいの場となるような環境づくりを目指します。

《●中札内小学校の状況》

- ・月1回程度、中休みの時間に読み聞かせを図書館ボランティアが行っています。
- ・学校図書館の使用にあたっては、国語や学級活動の時間を使用し、正しい使い方を指導してします。
- ・貸出状況や管理は教職員や図書委員が行っています。
- ・図書委員がお薦めの本を掲示物で紹介したり、図書室の正しい使い方についてポスターでわかりやすく呼びかけたりしています。
- ・図書委員により、季節に合わせた飾り付けも行っております。
- ・校内で読む本を借りるときは、プラスチックの代本板（本と同じくらいの大きさ）を本と引き換えに置く仕組みとなっており、多くの児童が利用しています。
- ・貸し出した本は休み時間に教室で読んだり、家に持ち帰って読んだりしています。
- ・図書館の本を児童を貸し出す巡回図書⁴のコーナーを各教室に配置し、司書教諭が月に1度本の入れ替えをしています。
- ・保護者のボランティアグループ『ひなたぼっこ』により、図書室の美化と図書の整備を行っています。



●課題

- ・本の貸し出しや学校図書館の利用方法以外にも、読書に対する積極的な関わりを模索する必要があります。
- ・本の修復、配架、除籍などの管理方法を、児童に知ってもらえるよう工夫する必要があります。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・PTA、ボランティア、図書館など地域の大人の力と知恵を借りながら、教職員や図書委

⁴ 巡回図書 図書館の本を学校のクラスごとに1か月貸出すシステム。司書教諭が各学級の要望を図書館にあらかじめ伝え司書が専用ボックスにいれた本を司書教諭が入れ替えをしている。

員をはじめとした児童と学校図書館の整備を行います。

・昼休みや放課後に好きな本を選び自分のペースで読んだり、興味があることをじっくり調べられる居心地の良い空間を作ります。

・本を児童にアピールできるよう紹介方法を工夫していきます。

・各学年の実態に応じて、朝読書などの学校生活の中に積極的に読書を取り入れます。

・大人が子どもにその良さを伝えたい本を考えながら、本の選定を教職員、児童、PTAで行っていきます。

・夏期、冬期などの休業中に、教職員で学校図書館の本の修復を行い、効果的な配置を考えるなどの作業を計画的に行います。

・調べたいものの答えをがすぐ見つけれられるよう司書教諭及び図書委員によるレファレンスサービス⁵を行います。



◀●上札内小学校の状況▶

・学校中央の開放スペースにじゅうたん敷きの学校図書館があります。各学年の教室の間にあることから、いつでも気軽に子どもたちが利用できます。

・本の選書は、児童と教職員で図書の種類などを考慮して計画的に行っています。

・貸出や返却は文化係児童が管理しており、週1回程度点検や掃除を行っています。

・週2回、朝の会の前に10分間読書タイムを設けています。

・月に1～2回、地域の読み聞かせボランティア「まぎあぐうす」が昼休みに読み聞かせと随時本の整備を行っています。

・図書館の本を児童に貸し出す巡回図書のコーナーを配置し、司書教諭が月に1度本の入れ替えをしています。

・月に1度、朝会で児童会から「おすすめ本」の紹介をしています。

・月に1度、図書館司書が選書した児童書、一般書を個人に貸し出しをする移動図書⁶を行っています。



●課題

・窓を大きく取った場所のため背表紙が色あせており、判読不能の図書が多いことから本の退色を防ぐ手立てが必要です。

⁵ レファレンスサービス 図書館などで、調べものの援助をする業務のこと。調査のための参考になる資料を整備・作成することも含む。

⁶ 移動図書 月に1回司書が選書した図書館の本を学校などで個人に貸し出しするもの。

- ・本の修復、配架、除籍など管理方法に工夫の余地があります。
- ・大型本に対応できる本棚への改善が必要です。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・本が苦手な児童にも興味を持ってもらえるような展示を工夫します。
- ・本の管理方法を教職員、図書館や地域のボランティアなどの協力を得て検討し、児童にとってよりよい読書環境の整備を図ります。
- ・本を長く活用できるよう新規購入本からUV効果のあるブックカバーをかけて本を保護します。

第4節 中学校

知識欲がわき、世の中のであふれる情報を判断し、取捨選択できる力が育つ心身ともに成長著しい期間です。生徒の求める情報に出来るだけ応え、居心地のよい時間を過ごすことのできる安らぎのある学校図書館を目指します。

●中札内中学校の状況

- ・校舎がリニューアルし、図書室もオープンスペースで気軽に利用できるようになりました。
- ・現在、貸出や返却は図書委員の手作業で行っています。
- ・本の選書や購入は教職員と図書委員で行い、定期的に本の点検や学校図書館の整備を行っています。
- ・読書活動推進のため、図書担当教師がオリエンテーションを開いたり、図書委員が定期的に図書便りを発行して、本の紹介や、学校図書館の利用呼びかけなどを行っています。また、朝読書の推進活動も行っています。



●課題

- ・本の修復、配架、除籍など管理方法を工夫する必要があります。
- ・利用しやすい学校図書館に改善する必要があります。
- ・本だけでなく、雑誌・紙芝居・DVD・CDなどのあらゆる図書館資料充実の必要があります。
- ・蔵書管理、検索、貸出がスムーズになるよう図書館システムを更新する必要があります。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・図書館と連携を図りながら、図書の管理や配架方法などを検討し、活用しやすい学校図書館運営を目指していきます。
- ・今後も図書委員で取り組みながら、教職員と連携して学校図書館の環境整備を検討していきます。
- ・昼休みや放課後に好きな本を読んだり、興味があるものをじっくり調べられる居心地のよい図書館を目指します。



第5節 図書館

子どもが読書の楽しみを知り、図書に親しめるようにさまざまな活動や図書館資料⁷の環境整備を行っています。子どもたちのニーズを把握し、それに応え、さらに子どもの世界を広げる読書を提案できるようサービスの充実を目指します。

●図書館の状況

- ・子どもから大人まですべての利用者のために、他市町村の図書館と連携しながら必要な図書館資料⁷などをはじめとする情報の提供を行っています。
- ・月ごとに季節にそったテーマなどを決めて、本の展示コーナーを設けています。
- ・毎月第2、4土曜日に司書と図書館ボランティアがおはなし会⁸を行っています。
- ・子どもに図書館の仕事を体験してもらう図書館のお仕事チャレンジ講座⁹、映画上映会、図書館クイズ、工作教室などの各種イベントや展示会を開催しています。
- ・ブックスタート（2～3ページ参照）を行っています。
- ・図書館ボランティアの協力を得て、中札内きらきら保育園と中札内小学校、放課後児童クラブ（中札内）に読み聞かせを行っています。また、中札内小学校、上札内小学校、放課後児童クラブ（中札内）で巡回図書を、上札内小学校で移動図書を行っています（5～9ページ参照）。

⁷図書館資料 絵本、本、雑誌、紙芝居、DVD、CDなど図書館が利用者に提供できるさまざまな資料をいいます。

⁸おはなし会 絵本や紙芝居の読み聞かせを行う。子育て家庭に、読み聞かせの方法や絵本の紹介といった本に関するアドバイスも行っている。

⁹図書館のお仕事チャレンジ講座 図書館の使い方重点をおきながら、司書の仕事もチャレンジしてもらい、本の配架や窓口業務などを体験する講座です。

・北海道立図書館と連携して、本の大量一括貸出など、学校が本に関するイベントを行う際に支援をしています。

・絵本作家による絵本読み聞かせライブを村内小学校等で実施しています。



●課題

・各小中学校の学校図書館、児童館の本の整備に向けて連携を深めていくことが必要です。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・分野別に本のリストを作成し、子どもの発達に応じた本の紹介や読書相談を行います。
- ・子どものニーズを把握しながら、地域の学習もできるように図書館資料を充実させます。
- ・本を探しやすいように配列を工夫し、本棚の環境を整備します。
- ・各小中学校の学校図書館、児童館の本の管理方法について状況を把握し、環境を整える支援をしていきます。
- ・障がいのある子どものニーズも把握し、必要に応じて図書館資料の充実を図ります。
- ・読み聞かせや読書を推進する方々に、手法、場所や機会を提供します。
- ・調べたいものの答えを見つけやすいようレファレンスサービスを充実します。
- ・各学校への貸出、循環システムによる図書の有効活用と複本の軽減に努めます。

第6節 地域

子どもたちへの読み聞かせはボランティアの協力で行っています。地域のボランティアの主体性を重んじ、幅広い活動ができるよう支援します。

また、放課後児童クラブの時間でも子どもが本に興味を持てるように巡回図書や読み聞かせを継続します。



《●ボランティアの状況》

・村には中札内市街で活動する「図書館ボランティア」と上札内地域で活動する「まざあぐらす」の2つの読み聞かせボランティア団体があります。

●課題

・ボランティアを増やし、今後の活動の範囲拡大、充実へとつなげていけるような体制づくりが必要です。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・ボランティアの活動を今後も支援し、将来に向けて継続した活動へつなげていきます。
- ・ボランティアの研修機会を増やすため情報の提供に努めます。

◀●放課後児童クラブ（学童保育）の状況▶

- ・放課後児童クラブで購入した本や寄贈された本を配架しています。マンガなど人気の本は傷みが激しいものが見受けられます。（中札内）
- ・子どものニーズに応じた図書の購入に努め、寄贈本も受けています。（中札内、上札内）



●課題

- ・子どもが幅広い本に興味を持てるような環境づくりが必要です。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・本の管理方法や展示方法を工夫し、様々な本を手にとってもらえることを目指します。
- ・放課後児童クラブでは、今後も子どものニーズに応じた図書を計画的に購入し、読書する環境を整えていきます。
- ・中札内で行う巡回図書においては、興味をもって読まれ、活用される図書の配置を目指します。

第3章 計画の普及に向けて

第1節 計画の効果的な推進に向けて

計画の策定にあたり、現状把握と課題整理を行ったうえで今後の読書活動を効果的に推進できるようにまとめました。

現在においても既存の各種事業を多く実施していますが、子ども全般に共通する課題として、本が好きな子とそうでない子に偏りがあることが浮き彫りになりました。また、本を大切に扱い、傷んだら修復するという管理の過程も子どもに指導する必要性が認識されました。これらの課題に対し、家庭、保育園、小中学校、図書館や地域などが連携しアプローチしていくことを今後の推進に向けた取り組みとして盛り込んでいます。

時代によって変遷する子どものニーズを的確に把握し、すべての子どもたちが「よりよい読書活動」を楽しめる体制整備の実現を目指します。

第2節 推進するために

「中札内村子どもの読書活動推進協議会」において、計画の推進を図っていきます。

●啓発・広報事業の展開

- ・広報紙やパンフレットを活用して、読書に関する情報の提供や啓発活動を充実します。
- ・保護者に向けた読書活動の意義や楽しみを啓発します。
- ・子どもの読書活動に関するイベントや図書紹介を実施します。

●関係職員の資質向上・連携

- ・読書活動につながる研修会への参加体制を整備していきます。
- ・各関係機関との情報共有を進めていきます。
- ・司書教諭の確保を目指すとともに、学校司書の配置も視野に入れます。

●よりよい読書活動への環境整備

- ・読書ボランティアの養成・確保を進めます。
- ・図書館や学校図書館で、より子どもが本に親しめるように環境整備を行います。
- ・ニーズに配慮しながら図書館でそろえるべき図書の選書と蔵書管理に努めます。
- ・情報センターとしての機能を果たすため、レファレンスサービスの充実に努めます。
- ・ネット検索では調べきれないことが蔵書で深く調べられる利点をPRします。

第3節 心豊かで健やかな成長を願って

●楽しい読書習慣を身につけよう

●よりよい読書の環境を整えよう

●読書の村づくりを推進しよう

中札内村子どもの読書活動推進計画「第二次計画」 策定委員名簿

役職名	策定委員名	職名
委員長	木戸 正人	中札内小学校校長
副委員長	高桑 浩	教育次長
委員	高島 啓至	福祉課長
委員	川尻 年和	保育園長
委員	吉川 ありさ	中札内小学校教諭
委員	森岡 達昭	上札内小学校教諭
委員	佐々木 睦美	中札内中学校教諭
委員	宮澤 薫	主任保育士
委員	押切 典子	子育て支援センター 主任保育士
委員	岸梅 哲郎	教育委員会 指導主幹
委員	明上 幸太	教育委員会 社教主事
委員	杉浦 慶美	図書館司書 (事務局)
委員	原口 このみ	図書館司書 (事務局)
委員	角玄 光代	事務局

※ 委員8名 事務局6名 計14名

策定年月 平成28年1月
中札内村教育委員会

